

軽量で簡単に設置 太陽光発電開発

鳥栖の会社



開発した太陽電池のパネルを持つ川口社長

従来型より大幅に軽くなった太陽光発電システムを、鳥栖市原町の川口スチール工業（川口信弘社長）が開発した。既存の建物にも簡単に設置できることから、環境面への貢献も期待されている。

フッ素鋼板にアモルファス太陽電池を組み込んだフィルム状モジュールの厚さはわずか1ミ。これをスチール屋根材に組み込んで一体型パネル（幅53センチ、長さ3・9メートル）にし、倉庫や工場、ビル、ショッピングセンターに設置できるようにした。パネル1平方メートル当たりの

重さは約7キログラムで、従来のガラス基板を使った太陽電池の10分の1〜5分の1。鋼材による設置架台も不要で、屋根を補強することなく取り付けが可能。ことから、導入費用も軽減できる。曲面になった屋根や壁に合わせて加工し、取り付けることもできるという。

設置企業の負担を軽減し、導入を進めるため、同社は建物の屋根を借りてシステムを設置、発電した電気を企業に買い取ってもらう仕組みも提案している。昨春秋に開発し、経済産業省が視察に訪れたほか、全

国の企業や自治体から多数の問い合わせが寄せられているという。川口社長は「住宅への太陽電池の設置は進んでいるが、産業界では普及が遅れている。電力使用量が多く、屋根の面積も大きいので、

太陽光発電システムが普及すれば、地球温暖化対策にもつながるはず。ぜひ活用してほしい」と話している。問い合わせは同社（0942・83・6331）へ。
（柿本高志）